

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホームあそうだ		
所在地	熊本市北区麻生田2丁目5-41		
自己評価作成日	平成30年2月28日	評価結果市町村受理日	平成30年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街にあるホームは騒音がなく静かな恵まれた環境の中、ゆったりとした時間の中で毎日の生活を送ることが出来ます。認知症があっても本人が自分のペースでゆっくりとした環境の中で過ごす事ができるような支援を心掛けています。
 認知症ケアとともに地域交流にしっかり取り組んでおり、外部との交流を盛んに行い、地域で孤立しない、一員となるような生活を送る事ができるようなケアをしています。
 また、毎月、個別援助報告書を郵送し、入居者様の日常の生活を御家族様にお伝えする事でコミュニケーションを図るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は地域の中での基盤の確立に向け外に向かって交流しており、校区の餅つき大会・夏祭りや地域福祉祭り、認知症徘徊模擬訓練等に企画・参画し、地域貢献の一つとして共有デイサービスをスタートさせる等地域生活を拡充されている。管理者を中心として風通りの良い関係は、入居者の“行きたい、したい”にフットワークを発揮するとともに、職員が“してあげたい”事も実践する等熱い思いがケアに表れている。(例:入居者との温泉への外出等) 入居者の役割のある生活は生き生きとした表情を引き出している。そのことは、掃除に勤しむ姿勢や趣味の継続としてハーモニカを奏する等和やかな生活に表れている。入居者の年齢も60歳代から94歳と幅広い中で、職員が一人ひとりの思いや趣味嗜好の違い等を的確に把握しケアに反映されており、“愛情・真心・敬い・慈しみ・いたわる心”の法人の精神が職員に息づいてきたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をスタッフルーム・食堂などに提示し、いつでも確認できるようにしている。また、月に1回の全体会議や職員ミーティングで唱和を行い、理念の共有と実践を行っている。	法人の理念「愛情・真心・敬い・慈しみ・いたわるこころ」を基に、ホーム独自に「入居者が地域住民として…」をする入居者目線として理念を掲げている。法人が掲げるスローガンであるコンプライアンスを追究するプロ集団としてスペシャリティ・ホスピタリティ等全員が共有している。地域貢献の一つとして認知症デイサービスをスタートさせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	どんどやや防災訓練、餅つきなど地域の行事に参加したり、近隣保育園園児との交流を行ったりする事で地域との繋がりを作っている。また校区での見守り運動や声かけ運動への参加も実施している。	地域の中での基盤の確立に地域の中に出向き交流促進に努めた1年である。校区の夏祭りでは会場設営から関わり、認知症徘徊声掛け模擬訓練にはアドバイザーとして企画・参画し、どんどや等にも出かける等地域の中での初期基盤は確立している。ホームにも近隣住民もボランティアとして定期的な訪問もある他、保育園との相互交流等継続して取り組んでいる。公民館の集まりに参加される入居者もおられる等入居者自身も地域の中の一員としての活動を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症デイサービスを開設し、地域の在宅で生活される方の支援を新たに開始し、地域で暮らす方への支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施しており、自治会、ご家族様から事業所に対する意見や要望を聞き、事業所の運営やケアサービスに取り入れるようにしている。	定期的開催する運営推進会議は、2ヶ月間の取組を報告する場や地域の情報を得る機会として生かされている。地域や家族からも意見や要望等も開示している。また、雑談の中からも意見等を見出しサービスに反映させている。	充実したメンバー構成とともに、土曜日の開催にも関わらず毎回参加される地域包括支援センター職員には敬意を表したい。今後、外部評価結果を一緒に考える機会としたり、管理者以外の職員も参加することで、職員のコミュニケーション能力等の育成の一環に生かされる等検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢介護福祉課から介護相談専門員が毎月、来館されている。取り組みとして、入居者のニーズを第三者の立場で聞き取って頂き、その報告書を基にケアサービスや施設運営に活かしている。	地域包括支援センターささえりあ主催の徘徊声かけ模擬訓練時の協働や、認知症デイサービスのスタートに当たり市役所に頻繁に出向き相談やアドバイスを得ている。また、介護認定更新代行に出向きながらの情報を発信や、介護相談員制度を利用しながらケアサービスに反映させている。また、ささえりあと連携し在宅者の介護に対する不安軽減に努めたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除マニュアルや過去の事例などを活用し、全職員を対象とした勉強会を研修計画に基づいて行い、スタッフ間による話し合いを重ねている。	身体拘束をしないでよいケアは、日ごろの過ごし方で変わると捉え、法人内研修や身体拘束廃止委員会の中での事例検討等に参加した職員が資料を配布し周知を図っている。管理者はブロックワードをついってしまうこともあり、随時の指導や気になる時には個別面談により注意喚起している。職員からも言葉使いについての提案が上がる等急な立ち上がりに統一したケアに努めている。	管理者はホーム内独自の身体拘束廃止委員会の立ち上げが必要であると認識されている。全員で検討され、この中で日々の声かけやケアを振り返ることで、意識が強化されることと期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する事の職員研修を行ない、知識と実践の向上に努めている。虐待が見過ごされないように、入浴時にボディチェックを行なっている。また会議時に拘束をしないケアについて話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の入居者の方が利用されている。日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明も行う。改正時には分かりやすい説明後に署名、捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議にご家族もきて頂き、ご本人及びご家族の要望、施設運営についての率直な意見を頂いている。	家族の訪問時に要望等を聞き取りしており、“○○させて欲しい、こうしてもらいたい”等に日常的な申し出をプラン作りに反映させている。家族からの要望等は申し送りノートを紹介して全職員が共有している。運営推進会議も問題提起の場として生かされ、外部への発信の機会として地域包括支援センター等への申し出も可能であることを説明したり、玄関先には意見箱とともにアンケート用紙を設置する等家族の意見や要望を運営に生かす努力が随所に見られる。	玄関に設置されているアンケートは利用は無いとのことである。家族の忌憚のない意見や要望を収集する手段として、まず家族同士の交流の場を作り、家族会の設立に向けご尽力いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、全職員が参加する検討部会を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月の検討部会はスローガンの唱和からスタート。前月の課題の話し合い、個別案件についてはミーティングでまとめたものを申し送りノートにより周知している。必要な物品など職員の要望は管理者より上申する体制としている。管理者は日々ケアに入り、職員が意見等を言いやすい、風通しの良い環境を作っており、入居者を温泉に連れていきたい等の相談事は施設長に相談し職員と検討、2名体制で実現させる等職員の要望等をケアサービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績で給与水準等の条件の整備を行なっている。また、毎月の職員ミーティングにより意見を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員研修を毎月、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学を行い、他事業所のネットワークや勉強会に参加することにより、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人、家族に面談することで、要望などに耳を傾け、安心を確保するための関係作りを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、今までの生活スタイルや家族の介護経験を聞き、本人のよりよい生活が続けられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入するにあたってGHの介護のみではなく、インフォーマルなものも含め、他のサービスも視野に入れたケアを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かし、できる事はして頂くことで、暮らしを共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に本人に関する事は、相談した上で、共に本人を支えていく関係を築けるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人との面会の機会を設ける事で関係が途切れないようにしている。また施設に来やすい雰囲気作りにも努めている。	家族の訪問には静かに過ごせる環境を作り、友人の面会や家族との外食、近隣の散歩、受診時に家族と昼食を楽しめる入居者や、数時間の自宅への帰省の支援等、家族が望まれる場合には自由に外出していただきしている。また、元の職業がら他の入居者のお世話を良くしてくださる方や、ハーモニカを奏でる方等得意分野を発揮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体レベルに即した席割りや部屋割りを行うことで、利用者同士が関わり合える環境を作っている。間に職員が入る事で、孤立せずに楽しい生活の場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通じて本人の意向を確認し、その人らしい生活ができるような支援に努めている。困難な場合は、家族から情報を収集して本人の思いに沿うように努めている。	職員は会話の中で要望等を聞き取りしたり、家族からの情報により“らしさ”に注視したケアに努めている。会話が成立しない場合もあるが、寄り添う中で本人の思いを推察している。入居者の「したい・行きたい、食べたい」等の思いと一緒に買い物に出かける等本人の思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ方であっても、同じ1日の過ごし方はないため、記録や申し送りを通じて、心身の状態も含め総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行っている。スタッフミーティングで意見を出し合い、本人らしい自立支援出来るような介護計画を作成している。	本人や家族の意向を基に、主治医やケアマネジャー、職員による担当者会議等を行い、新規入居の場合は3ヶ月毎の見直しや、安定期になると半年毎に見直し新たなプランが作成されている。役割のある生活や、職歴を活かした生活、外出や散歩などによる楽しみのある生活をプランとしたり、退院後のADL低下による見直し等現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容・結果・気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。関係者間での協議により介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応する為に個別バスハイクを計画したり、柔軟な支援により、はりのある生活を継続して頂けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からのボランティアや保育園児との交流により、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に職員が対応し、事業所としても一人に対して、最低でも4週に一回に掛けて外出支援にて受診し、対応に努めている。	本人・家族の希望するかかりつけ医での受診をホームや家族により対応している。日々、看護職員を中心に健康管理を行い、緊急時は母体医院への指示による受診や、救急搬送等状況に応じ速やかに対応する等適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の観察やバイタルの中で、利用者の状態に変化がある時はもとより通常もかかりつけ医に相談し、緊急時は主治医、ご家族と相談し、緊急受診が出来る様に体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院となった時はもとより普段から介護情報の提供を行っている。治療中はこまめにお見舞いをしながら、医療関係者との連携を取って情報を収集し、退院後のスムーズな支援体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合や終末期のあり方についての話し合いを行っている。又、運営推進会議でも施設の取組や方針を報告し理解が得られるよう努めている。	重度化・急変時の対応に関するマニュアルを作成している。現在は看取支援について、職員配置の面から行っておらず、入居時に出来ることまで支援することを伝え、特養への希望など確認している。急変時の対応を中心に、法人内で研修し、家族へもリスクについて説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や事故発生時のマニュアルは用意している。加えてミーティングの際に個別の要件について、急変のリスクを話し合い、個々に応じた緊急時の対応方法を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策の基本である火災避難誘導の訓練を夜間と昼間想定で年2回行っている。夜間想定での避難訓練ではご利用者にも参加いただき、避難誘導し難い点、対策について話しあっている。	年2回、昼・夜を想定した避難訓練を実施している。内1回は、地域の自主防災訓練と一緒にホームの避難訓練を行い、認知症の方の避難誘導や見守りについて、理解を得る機会となっている。安全管理の一つとして、毎月担当職員を中心に、ホーム周辺の確認や台所などのチェックを行っている。	備蓄は本体施設で備えられているが、ホームからの距離もあり、今後は最低限必要な品をリストアップし、ホームでも確保しておくことが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを基に勉強会を開催し、言葉掛けや対応などプライドを損なわないように、またケアの場面において一人ひとりのプライバシーが確保できるケアにあたっている。	入居者への言葉使いや対応等マニュアルをもとに勉強会を開催している。また、守秘義務の徹底についても、入職時や会議の中で周知徹底が図られている。呼称は苗字にさん付けを基本とし、同性介助へも可能な限り対応している。入居者の幅広い年齢に十分配慮し、その方の自尊心を傷つけず、役割を持って過ごしてもらえるようにしている。	入居者とのやり取りは、方言を交えながらも声の大きさや馴れ合いの言葉使いについては、今後も職員間で周知を図る機会を作られることが望まれる。事務所は重要書類などが置かれており、管理方法については十分な配慮が望まれる。また、面会簿については、個別記入など検討されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホームは生活の場所であり、時間で束縛する事なく、本人のその場その場での意思を尊重し、自己決定が出来る環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、趣味、嗜好に基づいてご本人に自由に過ごせるように本人に確認を取りながら、束縛しない環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けを行い、本人が着たい服を選んで頂いている。家族からお気に入りの洋服を教えて頂き、本人の個性が維持出来るように支援している。入浴の際も衣類をご自身で選んで頂く様工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が無理の無いよう、出来る範囲で食事の準備や片づけを職員と一緒にやっている。	朝食と主食のご飯をホームで準備し、副食などは本体厨房で調理されたものを提供している。管理者は本体栄養士に入居者の好みを伝えており、「寿司を食べたい」の要望に、ちらし寿司などでの対応が検討されている。検査は本体で行っており、職員が同じものを食べる機会は持たれていない。入居者が調理に関わる機会は殆どないが、下膳や手際よくテーブル拭きをされる方もおられた。	職員が同じものを食べる機会がないことから、表情や聞き取りにより、思いを共有し楽しい食事支援に繋げていただきたい。ホームでご飯が炊かれており、温かく提供できるよう、つぎ分けの時間など配慮が必要と思われる。また、首に負担のないエプロンの使用方法や介助を行う際は着席し、表情を見ながら進めていかれることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスにおいては法人の管理栄養士に相談している。また、水分補給をまめに行い、摂取量をチェックしている。状況に応じて、細かく変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けの方、見守りが必要な方、介助が必要な方と個々に応じてケアを行っている。状態によっては訪問歯科により口腔内のフォローをして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、排泄のパターンを把握し、自立に向けた支援を行うよう努めている。	排泄チェック表により個々に応じた声掛け・誘導や自立でトイレに行かれる場合も見守りを徹底し、日中はトイレでの支援に努めている。入居者の動きを見逃さず、サポートに努める職員の姿がみられた。夜間のみ使用される方のポータブルは、歩行の妨げにならない設置場所や、使用後の洗浄など清潔に管理し、居室への臭気など無いようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しながら、排便コントロールに気をつけている。自然排便を促す為に、適度な運動(全身体操)や水分補給の声掛け、腹部マッサージ等を施行し便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を準備している。週3回程度の入浴を目安にしているが、希望があれば入浴日でなくても入って頂いている。	入浴は午前・午後で準備しており、バイタルチェックで入浴可否を見極め、拒否の方にも週2回入ってもらえるようにしている。同性介助への希望にも可能な限り対応し、入居者個々のペースでのゆっくりした入浴を支援している。身体状況によっては、シャワーチェアを湯船に入れ、2名介助で対応している。今年度は希望から温泉施設での入浴を実現させ、家族風呂へ入居者2名と職員2名で出かけ楽しいひと時を持たれている。冬至の時期には近隣者からの差し入れにより、柚子風呂が数日行われ、これまでバンペイユ風呂を取り入れた事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、その時々状況に応じて見守ったり、温度調節をしたり、布団掛けの調整で良眠できる睡眠を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は職員が行い、ダブルチェックにより、飲み忘れや誤薬防止の為の取り組みを行っている。服薬が原因と見られる体調不良時は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、食事の片付けなど利用者が出来ることは無理強いせずに見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や菅原神社へのお参りなど外出の機会をつくりまわりの景色や季節を感じて貰っている。家族にも外出支援の協力をして頂いている。	日常的な散歩や神社参拝、初詣や夏まつり・餅つき・どんどやなど、地域や校区のイベントや行事へ出かけることは、季節を楽しみながら交流の機会でもあり運営推進会議などの情報も得ながら参加している。また、紅葉見学や劇場での音楽祭観劇への外出も好評だったようである。全員での外出は難しい場合もあり、スーパーへの買い物や地域カフェへの参加など、個別の外出を支援している。家族の協力もあり、外食や近隣への散歩に出かけられている。	暑さや寒さ、感染症の時期は外出を控えがちであるが、最近では寒さも和らぎ、散歩を兼ねた外出支援も増えているようである。今後も地域や家族の協力を得ながら、入居者の外出の機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つこと、使うことの大切さを理解しており、実際に欲しい物を購入出来るよう、自立支援を行っている。同時に家族同意の下で事業所預かり金がある。必要とあらばお金を預かり管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の今までの関係性を壊すことなく、手紙や電話のやりとりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光彩や室温に気を配り、空調の管理を常に行なっている。ラジオやBGMとして音楽を流すことにより、居心地よく過ごせるようしている。花を生けたり季節の創作物を掲示したりしている。	ホームには保育園児や琵琶・オカリナ演奏など様々な訪問があり、その時々で食堂やリビングを使用した交流が行われている。外出をはじめ、これらの日中の活動の様子は、廊下の壁に掲示されている。食堂は、遮光にも配慮しながら努めてカーテンを開け、車や人の往来、外の景色を楽しむなど開放感のある空間を心掛けている。また、日々の掃除により臭気もなく快適な空間を心掛けており、モップ掛けなどを手伝われる方もおられる。	玄関は避難誘導など安全面から靴の収納をはじめとした整理整頓に期待したい。浴室についても危険なものがおかれていないか点検いただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、ダイニングと複合的に利用することにより、開放的な空間で思い思いに過ごせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた調度品を居室に設置することにより、居心地よく過ごせている。また毎日清掃を行ない、過ごしやすい環境づくりに努めている	現在は他の介護施設や医療機関からの入居が殆どであり、安心して過ごせる居室となるよう、自宅で使用されていた物の持ち込みを依頼している。入口に目印のタオルが下げられた部屋や仏壇・箆筒・椅子・写真など家族の協力により持ち込まれている。衣替えや季節外の寝具の管理は、家族に協力をお願いし、必要な品はその都度依頼している。居室の掃除は換気と共に行い、室温は部屋の場所や個々に応じて設定している。	居室の掃除を行う際は、開花の過ぎた花鉢などにも配慮しながら散り組まれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に掲示物として「御手洗」の案内表示をしている。安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		